

クラス番号	321	担当教員名	木全 和巳
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	子どもたちの“いのち”を護り、育てるソーシャルワーク実践の創造を		
著書・論文 研究課題等	<p>【単著】『児童福祉施設で生活する〈しょうがい〉のある子どもたち〈性〉教育支援実践の課題』(2010)／『安心して豊かに暮らせる地域をつくる』(2008)／『わたくしたちはソーシャルワーカーです』(2007)『子どもの権利とオンブズワーク』(2017)【共著】『障害は迷惑ではない』(2016)など</p> <p>【研究課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者総合支援法などの〈しょうがい〉児者社会福祉施策に関する研究 2. 〈しょうがい〉のある人たちとの相互学習と地域生活支援実践に関する研究 3. 〈しょうがい〉のある子ども青年たちへのセクシュアリティの援助実践に関する研究 		

ゼミナール概要

キーワード：／ソーシャルワーク実践／地域生活支援／発達保障／人権保障／セクシュアリティ支援／

目的：いま一番関心があるのは、単なる知的機能しょうがいや認識機能の発達の遅れや自閉性しょうがいによる感覚機能の混乱による支援の困難ではなく、愛着機能の不全による支援の困難が重なった事例とその支援です。彼ら彼女らが、生い立ちのなかで、まるごと受けとめられず、常にきょうだいや同級生などの他者たちとの比較のなかで育てられ、ときに虐待を受けたり、いじめの被害者にあったり、深く傷ついた状態から癒やされておらず、そのために過度な性的接触を求めてくるような状況に対してどのように実践的に向き合っていくのかという事例です。現在、格差が広がり貧困が増えていくなかで、〈親密な関係における暴力〉にさらされる子どもたちが増加しています。育む一育つ、教える一学ぶという「信頼」や「安心」を必要とする人間関係のなかで起こっていることが特徴です。こうしたことが、青年期、成人期にも、深い影響を与えています。みなさんとは、こうした現代社会と本人、家族、支援者の困難性と課題を共有しつつ、ともに学び合いと切にねがっています。

授業計画（内容、方法等）：ゆっくり じっくり のんびり ていねいに 一人ひとりを大切に で しょうか

3年次は、ゼミ生一人ひとりの深めたい「こだわり」を確認していくこと、当事者・家族・支援者の人たちをゼミに呼んだり、実際に現場に出かけて話を聴いたりしながら、学生のみなさんが興味関心をもっているテーマを深めていくことをみんなでしていきます。夏休みは、「活動」や「聴き取り」の課題があります。夏休み以降の実習に向けても、ゼミの研究課題と結びつけてのアドバイスもできればと思います。

秋以降は、実習のふりかえりと共に、さらに自分のテーマを明確にしながら、改めて当事者・家族・支援者の人たちに話を聞きに行くことや、実際にフィールドに出ながらの資料収集などもしていく支援をしていきます。また、こころとからだや〈しょうがい〉の学習を本人たちと行うワークショップもします。春休みには、1泊2日で、ゼミで施設見学に行きます。同時期に、卒業論文の第1回の中間報告会をする予定です。

4年次は、個々の興味関心を大切にしながら、卒業論文作成に向けて、支援をします。児童養護施設で暮らす〈しょうがい〉のある子どもなど、「放課後デイ」、「学童」、「療育」など、対象も子ども、きょうだい、家族、支援者など、〈しょうがい〉の種別もどんな〈しょうがい〉でも大丈夫です。理論研究、実践研究、歴史研究など、自分がやってみたい方法で挑戦してみてください。できれば、現場に出向いて本人家族支援者に聴き取りをいっていくような実践的な調査研究をお勧めします。9月には、卒業論文の第2回の中間報告会をこれも2日間ぐらいかけて行う予定です。秋以降は、卒業論文を書き上げるための支援をします。

*金曜日の6限に社会福祉学部の安藤先生、子ども発達の伊藤先生と自主的な学習の場として、全国障害者問題研究会学生サークルをしています。地域で開催される児童養護施設の研究会や障害者問題の研究会、紹介するので、どんどん自主的に参加してください。サークルなどのフィールドを大切にしてください。

担当教員からのメッセージ



1. 自分のテーマをみつけ、卒論を書くこと、
2. 希望する進路を実現させること、
3. 卒業後も相談できる友だちをみつけること

学生時代や大学院の時は、学習障害（LD）のある子どもたちとあそびを通して学び合う活動をしていました。就職をしたのは、児童養護施設でした。ここで、虐待を受けた子どもたち、親たちといっしょに暮らすことのできない子どもたちと出会いました。次に、転勤をしたのは、知的しょうがいのある子どもの生活施設でした。ここでも、知的しょうがいがありつつ、親たちに虐待や生活の問題があって、いっしょに暮らすこともできない子どもたちの生活の支援をしてきました。最後の職場は、情緒障害児短期治療施設でした。ここでは、セラピストとして、虐待を受けた子どもたち、不登校になった子どもたちへの治療的なかかわりや親たちへのカウンセリングや生活相談支援などを担当しました。日本福祉大学の教員になったのは、22年前です。本人たちとの学習、保護者たちや支援者たちの相談と学習、支援のための実践と研究を続けてきました。通園施設や児童デイサービスなど保育士の資格をとりながら、特別支援の教育に関心のある方、入所の施設に関心のある方、地域生活支援に関心のある方、映画の中、小説や絵本の中の〈しょうがい〉のある人たちに関心のある方、自分のこだわりを大切にしてください。仲間とともに自主的に学び合いたい方、実践者としてちからがつけたいとねがいをもっている方が対象です。